

CDM植林技術指針調査

調査期間:平成15年度～19年度

調査実施主体:国際緑化推進センター (JIFPRO)
海外産業植林センター (JOPP)

調査担当者:山田麻木乃, 森 徳典
仲摩栄一郎/中山祐介

委員会:委員長 天野正博他13名

- **調査目的:** 国内及び途上国のCDM植林プロジェクトの開発を支援, 特にDOEへのPDD申請支援
- **調査項目:** 1) 国内作業 CDM理事会等の結果の随時
翻訳・広報 by HP & 報告書
投資シミュレーションモデル作成
2) 国外作業 途上国のCDM取組み現状調査と
PDD作成支援

調査対象地域:

アジア地域; インドネシア (H15),
ベトナム (H16)
中南米地域; ウルグアイ (H17-18)
パナマ (H17-18)
アフリカ地域; プルキナファソ (H19)
ウガンダ (H19)

AR CDMの主な経過

2003 H.15	<ul style="list-style-type: none"> •A/Rは具体化に向けた議論が始まったばかり •排出削減の方法論が初承認
2004	<ul style="list-style-type: none"> •ARWGが設置され、本格的な議論始まる •A/R CDM用方法論・PDD提案フォームが完成
2005	<ul style="list-style-type: none"> •A/R通常規模方法論初承認 •A/R小規模方法論(草地・農地)開発・承認 •追加性のツール
2006	<ul style="list-style-type: none"> •初のA/Rプロジェクト承認(中国) •土地適格性の判断に関する議論
2007 H.19	<ul style="list-style-type: none"> •方法論ツール多数開発(プロット数、排出、リーケッジetc) •承認方法論:通常規模10件 •承認プロジェクト:通常規模1件 •有効化審査に入るプロジェクト増加(2月末現在14件) •小規模方法論(湿地・居住地)開発(小規模計3件) •小規模プロジェクトの上限が拡大

HPによる情報提供



植林CDMに関する情報提供しています

[WWW.jopp.or.jp/CDM/](http://www.jopp.or.jp/CDM/)
(3月末にリニューアル予定)

- EB/ARWGの動き
- 日本語訳・解説(PDD、承認方法論、ツール) など

ウルグアイ (産業植林)

プロジェクトタイプ	大規模プロジェクト (PDD作成支援)
ベースライン植生	草地 (粗放な放牧地)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ➢土地所有の明確な広大な放牧地が全土にある。 ➢混牧林(シルボパストラル)・長伐期林業が望まれている。 ➢産業植林が存在するので、追加性がない地域もある。 ➢適切な方法論がない ➢放牧動物の移動に伴うリーケッジの扱いに難。



広大な放牧地



放牧風景, 家畜移動が問題

ベトナムとブルキナファソ (木材生産主体)

プロジェクトタイプ	小規模プロジェクト (模擬PDD作成/可能性)
ベースライン植生	草本主体・低木散在 (移動耕作休閑地)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ➢国有地に使用権 or 伝統的使用権。 ➢木材利用が主体。環境影響も配慮。 ➢SSC草地・農地方法論 ➢一部農地利用のリーケッジが問題。粗放な放牧あり。 ➢BFのC吸収量 $1/2 < V$。 ➢住民はチップor薪として利用 = 管理意識は高い



ベトナム・アカシアハイブリッド林



ブルキナファソ・住民コメント収集
(植林樹種: ユーカリ, ニーム, アカシア)

インドネシアとパナマ（環境植林主体）

プロジェクトタイプ	小規模プロジェクト (模擬PDD作成)
ベースライン植生	草本主体・低木散在 (粗放放牧地)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ➢土地所有は国有地。住民は伝統的使用権。 ➢環境植林が主体。木材利用も視野に。 ➢草地・農地方法論。 ➢放牧動物の移動(リーケジ)は数の変動なし。 ➢住民に管理意識希薄 火災や盗伐の危険性が大きい。



インドネシ・アマホガニー林



パナマ・候補地の草原
(植林樹種:カリピアマツ)

ウガンダ(環境・木材生産)

プロジェクトタイプ	大規模 / 小規模プロジェクト
ベースライン植生	草地(サバンナ・伐採された森林)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ➢小規模が適しているが大規模も検討されている ➢適地となる草地はあるが、住民が利用している場合がある ➢住民参加型プロジェクトが期待されている ➢現在、小規模ARプロジェクトが有効審査中(国立公園内の小規模プロジェクト)。



プロジェクト申請地



住民による候補地ガイド

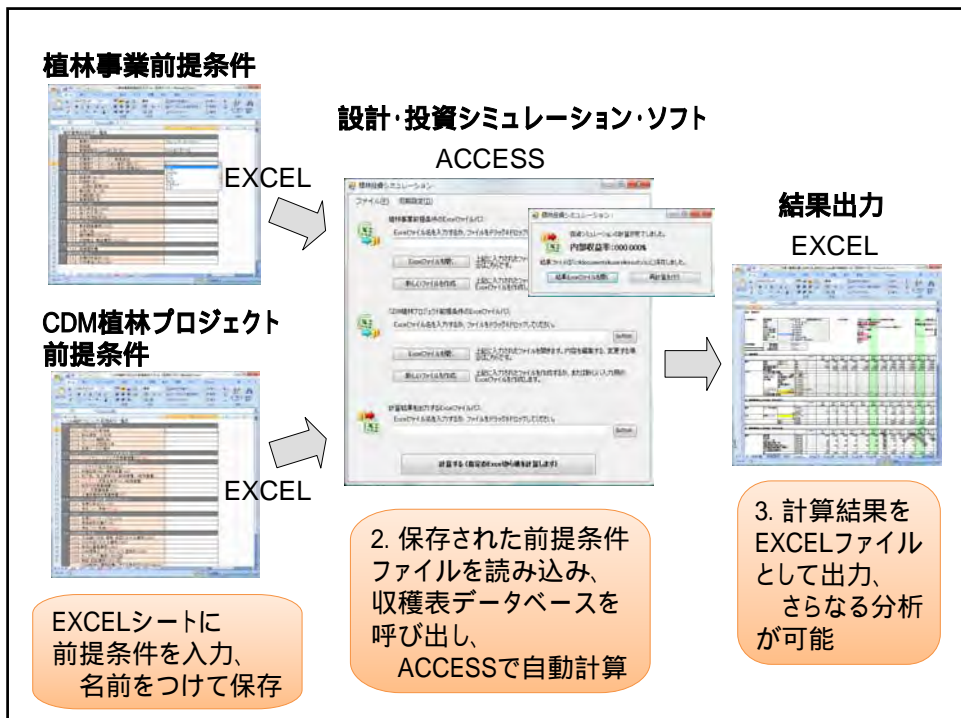
CDM植林プロジェクト 設計・投資シミュレーション・ソフト

1. 目的

- ・CDM植林プロジェクトの設計、純人為的吸収量の事前推定、事業採算性の評価等のために、簡便なツールを開発する。
- ・特にプロジェクト設計書(PDD)作成段階において、必要なデータが、このソフトを使うことで簡便に出力されることを目的とする。

2. 想定するユーザー

- ・CDM植林のフィービリティ・スタディ実施者やPDD作成者
- ・国際緑化推進センターが実施する「CDM植林人材育成国内研修」参加者
- ・海外における通常の植林事業(産業植林、環境植林など)にも対応可



CDM植林プロジェクト設計・申請の手引き

通常規模・小規模について
必需規定・手続き・方法論等の全集

目次

- A/R CDM用語
- 様式と手続き
- PDD/方法論完成の為のガイドライン
- 承認方法論の概要 (10 + SSC3)
- 方法論ツール
- EB決定事項の手引きと説明

ご静聴ありがとうございました。